



助けを必要とする 人々への支援

2024年の概要

末日聖徒イエス・キリスト教会



ようこそ

- 3 大管長会からのメッセージ
- 4 与える決意
- 5 地域社会の一人一人に奉仕する
- 6 女性と子供の支援
- 8 行動する教会員
- 10 人に奉仕する宣教師
- 12 JustServe (ジャストサーブ)

全世界での取り組み

- 16 取り組みの概要
- 18 災害時の救援活動
- 20 きれいな水と公衆衛生
- 21 教育
- 22 雇用
- 24 環境に対する管理責任
- 23 医療とモビリティ (歩行補助器具支援)
- 26 飢えに苦しむ人々への食料の提供
- 28 住宅支援
- 29 メンタルヘルス
- 30 自立

全世界での援助

- 34 アフリカ
- 36 アジア
- 38 オーストラリア、フィリピン、太平洋地域
- 39 カリブ海地域
- 40 中央アメリカと南アメリカ
- 42 ヨーロッパ
- 43 中東
- 44 北米

謝辞

リソース

表紙 (上から時計回りに) : ハリケーン「ヘレネ」の壊滅的な被害の後、抱き合う二人の女性。休み時間に食事をするホンジュラスの学生たち。写真提供 : Oscar Levia/Silverlight for Catholic Relief Services. リベリアで米を脱穀する農夫。菜園で野菜を集める日本の女性。ウガンダでボアホール (モーター駆動式井戸) 完成後に新しい蛇口をひねって水が出ることを見せる女性たち。写真/ウォーターエイドの厚意により掲載医師に診てもらったマダガスカル女性。

愛する友人の皆さん、

2024年に時間と資源を惜しみなくささげてくださったことに深く感謝します。昨年、教会の会員と友人たちは、イエス・キリストが現世での教導の業の中でたとえで教え、やって見せてくださったように「個人」を探し求め、手を差し伸べるようにという呼びかけを受けました。

皆さんが心を込めてそれにこたえてくださったので、実に謙遜な気持ちになります。世界中で皆さんはこの呼びかけにこたえて行動し、一人一人に手を差し伸べ、隣人を愛しています。皆さんのお力添えに感謝するとともに、この一年の総力を挙げた取り組みの報告を共有できることを、うれしく思います。この概要は、緊急事態への対応、飢えに苦しむ人への食糧の供給、女性と子供たちへの支援などの取り組みを通して、わたしたちがどのように協力して神の子供たちを助けてきたかをお伝えしています。これらの取り組みは、皆さんの惜しみない努力によって可能になりました。そして、信頼できる組織と協力して行われ、困っている隣人を助けようと努めている世界中の人々の善意によって、さらに強力な働きとなっています。

引き続き神の子供たちを支援するなら、神の愛を感じてもらえるようになります。天の御父は御自分の子供たち一人一人を愛しておられ、彼らが行っている良い働きを見ておられます。これからも周りの人々に奉仕し、愛し続けてくださるようお願いいたします。熱心に奉仕してくださる皆さんのうえに、神の祝福がありますように。

大管長会

Russell M. Nelson

Dallin H. Oaks

Henry B. Eyring

上ーラッセル・M・ネルソン大管長と二人の顧問、ダリン・H・オークス管長とヘンリー・B・アイリング管長。ナバホ族国家首相ブウ・ナイグレン博士とジャスミン・ブラックウォーター・ナイグレン夫人とあいさつを交わしています。





地元の困っている人たちのために食事を作る、トンガの扶助協会の姉妹たち。

与える決意

キリストは現世で務めを果たしておられたときに、神と隣人を愛するという、いちばん大切な戒めと第2の戒めを与られました。その後、主は「よい働きをしながら巡回され」（使徒10：38）、困っている人の世話をすることのほんとうの意味をわたしたちに示されました。末日聖徒イエス・キリスト教会は、救い主の愛と奉仕の模範に従うよう努めています。1936年に発表された教会の正式な福祉プログラムは、助けを必要としている会員を支援し、彼らが自立できるようにするために創設されました。1984年、教会は世界中の何百万もの人々に救援の手を差し伸べるため、人道支援活動を開始しました。

今日、教会は、福祉および自立支援の活動、世界規模の人道支援活動、ボランティアの奉仕を通して、会員と助けを必要としている人々の両方を支援する取り組みを引き続き熱心に進めています。

「わたしたちの同胞に対する多くの福祉と人道支援活動が、末日聖徒イエス・キリスト教会とその会員であるわたしたちによって教えられ、実践されています。」

大管長会第一顧問、ダリン・H・オークス管長¹

人道支援活動

教会は、人種や性別、国籍、宗教を問わず、困っている人々を助ける何千もの人道支援プロジェクトを支援しています。

福祉および自立支援の活動

福祉および自立支援の活動には、断食献金による援助、自立グループ、精神的および情緒的健康の支援、雇用サービス、教育プログラムなどがあり、おもに教会員に恩恵をもたらします。

ボランティアの奉仕

ボランティア活動は、わたしたちの人道支援、福祉、自立支援の取り組みの土台となるものであり、教会員や宣教師、友人たちの献身的な働きによって可能になります。このボランティア活動には、地域社会の奉仕プロジェクト、災害後の片付け、教会の福祉・自立事業での奉仕伝道などがあります。



地元地域で個人に仕える

2024年9月に100歳の誕生日を迎えたラッセル・M・ネルソン大管長は、迷い出た羊のたとえでキリストが述べられたように、わたしたち全員が手を差し伸べて一人一人に仕えるよう心からお願いしました。このたとえの中で、愛に満ちた羊飼いは、助けを必要としている人を見つけるために荒野に出て行きます。これは、わたしたちが救い主にとってどれほど貴い存在なのかを思い出させてくれます。

世界中の会員は、家族、友人、隣人など、地域社会にいる個人に仕えるようにというこの招きを喜んで受け入れました。ネルソン大管長はこの取り組みについて指針を与え、こう言っています。「これからの数か月、よく祈りながら次のことを考えるようお願いします。落ち込んでいる人をだれか知っていますか。和解する必要のある人はいないだろうか。赦しを求め必要のある人はいないだろうか。最近、理由はよく分からないけれども、だれかの名前が頭に浮かぶことはないだろうか。これらの質問を主に尋ねるならば、主は靈感を与えて、助けの必要な人に手を差し伸べ、その人を励ます方法が分かるようにしてくださいます。」



地元地域で助けを必要としている人に奉仕する際の指針として、以下のアイデアを検討してください。

- ◆ **友人と会う**：あなたの手を必要としている人に手を差し伸べます。その人とおしゃべりしたり、一緒に昼食を食べたり、散歩したりする時間を見つけましょう。
- ◆ **食事を作る**：だれかを夕食に招待したり、困っている人に食事を届けたりします。
- ◆ **子供や10代の若者の良き相談相手になる**：一人の子供に本を読んで聞かせてもらったり、生徒の宿題を手伝ったり、テスト勉強を一緒にしたりします。
- ◆ **衣服、食料などの物品を寄付する**：必要な物品を地元の慈善活動や避難所、慈善団体に寄付します。
- ◆ **自分の家族を助ける**：皿洗いをしたり、きょうだいの部屋の掃除を手伝ったり、家族をハグしたりします。
- ◆ **話を聞く**：時間を取って、家族や友人、隣人と一緒に腰を下ろして、ひたすら話を聞きます。話を聞くことによって、関心を示し、その人への奉仕のアイデアを見つけることができます。
- ◆ **携帯メールまたはメモを送る**：だれかに簡単な携帯メールを送ったり、思いやりのある言葉を書き送ったりして、大切にされていることを知ってもらいます。
- ◆ **感謝を伝える**：友人や家族、郵便配達員のように毎日わたしたちのために働いている人たちに感謝のメモを残しましょう。
- ◆ **地元の教会指導者と話す**：扶助協会や長老定員会の会長に、愛と奉仕を必要としている人が地元地域にいないか尋ねてください。
- ◆ **導きを求めて祈る**：助けの必要な人々を支援する活動をする際には、導きと靈感を神に求めてください。
- ◆ **JustServe.orgで奉仕の機会を見つける**：justserve.org にアクセスするか、そのアプリをダウンロードして、お近くで行われている奉仕プロジェクトを検索してください。





「立ち上がり、再建する財団」(Rise and Rebuild Foundation) が設立した学校で、栄養価の高いものを食べているフィリピンの子供たち。

女性と子供の支援

2024年、中央扶助協会会長会は、教会内およびより広い地域社会において、女性と子供たちの健康と幸せのための世界的な取り組みを拡大することを発表しました。この取り組みでは、児童栄養支援、妊産婦と新生児の支援、予防接種、教育に重点を置いています。

カミール・N・ジョンソン会長は次のように述べています。「世界規模の進歩は、子供が健やかに成長できる環境を作り、女性の地位向上を図ることから始まります。女性に祝福を注ぐと、家族や地域社会、国家にも祝福が注がれるようになります。同様に、子供に祝福を注ぐならば、それは将来に投資していることになります。」

教会員は、自分の家族や周囲の人を助けることを通して、日々この取り組みに貢献しているのです。**この取り組みへの参加方法を知るには、ページ下部のQRコードをスキャンしてください。**

児童栄養支援

世界では約1億4,800万人の子供たちが慢性的な栄養不良に陥っています。5歳未満の子供の健全な栄養摂取は、脳の正常な発達を促し、免疫力をつけ、持てる能力を最大限に発揮するための全般的な力を育むために不可欠です。

教会内の子供たちの栄養不良と闘うために、教会は子供の栄養と健康に焦点を当てた取り組みを始めました。このプログラムでは、栄養不良かどうかを判定して、治療に必要なリソースを、5歳未満の子供とその親に差し上げています。

教会は、非営利団体に資金を提供し、活動状況を監督して、教会外の子供たちについても健康管理と栄養摂取プログラムを、全世界で強化しています。フィリピンでは、子供たちの栄養不良を予防、発見、治療するための補助食品、ビタミン剤、衛生用品を提供する取り組みを支援するために、教会はカリタス・マニラ (Caritas Manila) に寄付を行いました。

妊産婦と新生児の支援

産前産後のケアは、母親と新生児の健康と安全を確保するのに役立ちます。教会は、医療従事者や診療所に不可欠な訓練と機器を提供することによって、重要な役割を果たしています。プロジェクトHOPEへの教会の寄付により、コロンビアとベネズエラに新生児と妊婦のための訓練と設備が提供され、妊産婦の死亡率が大幅に低下しました。さらに教会は、リベリアの内戦で旧来の病院と医療物資が破壊された後、助産院と設備の整った新生児病棟を新たに併設した病院を建設するというので、建設資金を寄付しました。

予防接種

予防接種は、乳幼児や妊産婦の死亡の原因となる病気から女性や子供を守るために不可欠です。女性と子供たちの健康と安全を確保するために、教会は様々な組織と協力して、感染しやすい地域にワクチンを届けています。マリでは、教会からの寄付もあって、ユニセフが女性に新生児破傷風ワクチンを接種することができ、命を脅かすこの病気を国内から根絶することに成功しました。



教育

質の高い教育は、個人の自立する力を高めます。そのため教会は、教会員であるかどうかにかかわらず、子供たちが必要不可欠な教育リソースを利用できるようにすることに力を注いでいます。教会は、コンゴ民主共和国、ケニア、スーダン、ウガンダでラーニング・フォア・ライフ（Learning for Life）プログラムを支援するためにユニセフに資金を提供しました。このプログラムは、幼児期における子供の発達を支援し、教育する質の高いサービスを、貧困下にある推定14万人の子供たちに提供しています。

この取り組みは全世界で行われており、子供たちに教育を受けさせるだけでなく、女性が自立して家族や地域社会を強くする存在になれるよう助ける活動も行っています。スロバキアで教会は、女性が介護士として就職できるよう訓練する地元の組織に寄付を行いました。さらにこの女性たちは、資格を取って就職するのに必要な装備や教科書、制服が与えられて、家族を養うことができるようになりました。

「費用対効果が高く、実績のある栄養サービスを拡大することは、世界中の母親と子供たちの生活を変えるために不可欠です。〔教会と協力して取り組むことにより、〕地域社会に持続的な変化が生まれ、すべての子供たちが健やかに成長できるようになります。

— 「ヘレンケラー国際」（HELEN KELLER INTL）、サラ・ブーチャー²CEO



左：シエラレオネで予防接種を受ける子供。右：医者から健康診断を受けるマダガスカル女性。



さらに詳しく

助けを必要とする人々への支援



左：2024年BYU女性大会で「飢餓との闘い」(Hunger Fight)の食糧を詰めるボランティアたち。右：近隣の奉仕プロジェクトに参加するニュージーランドの教会員。

行動する教会員

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、救い主の模範に従って人々に奉仕するよう努力します。教会員は神と隣人を愛するという約束をしていますから、人道支援活動への寄付や地域社会の人々に奉仕することを通して、困っている人を積極的に支援します。

断食献金

教会員は、しばしば断食し、「自分の持っている分に依じて、それぞれ持ち物を貧しい者に分け与える」(モーサヤ4：26)ようにというイエス・キリストの勧告に従います。末日聖徒はこれを、月一度、1日断食して、食べなかった食事の代金に相当する金額を、困っている会員を助けるために惜しみなく献金することによって行います。この献金は「断食献金」として知られています。さらに教会員は、他の人々のために自分の時間や才能をささげ、思いやりのある行いをします。地元の指導者はこの献金を使って、個人や家族が必要なものを自分で賄えるようにするための方策を見いだせるように助けます。

一人のために奉仕する

2024年、「人生で喪失感や孤独を感じている『一人』に手を差し伸べるように」というネルソン大管長の呼びかけに、世界中の末日聖徒がこたえました。数え切れないほどの親切な行いと奉仕を通して、会員たちは神の愛を世界中の神の子供たちに広く伝えていきます。

「互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」。

ヨハネ13：35

ユタ州レイトンで、あるヤングアダルトとその母親は、庭に植える大きな植物を買いました。ところがそのヤングアダルトが足を捻挫してしまい、しかもそれが重症だったため、母親と二人では植えることができなくなりました。彼女と母親は長老定員会の会長に事情を話しました。すると、会長はすぐに庭の植え付けを手伝う男性のグループを組織してくれました。

メキシコのプエブラでは、会員たちがラ・マルガリータ依存症リハビリテーションセンター (La Margarita Addiction Rehabilitation Center) のためにワークショップを開き、自立への道を歩んでいる人たちを支援しました。これらの取り組みは、立ち直りの道を歩んでいる人々に力を与え、彼らには立ち直る機会を与えるだけの価値があることを示しました。

女性と子供への奉仕

扶助協会(教会の女性の組織)の主要な目的は、助けに必要な個人や家族に物質的および霊的な安らぎを提供することです。世界中の扶助協会の姉妹たちは、日々この使命を果たしています。



ユタ州で開催されたブリガム・ヤング大学の2024年女性大会で、女性たちは様々な奉仕プロジェクトに参加しました。「飢餓との闘い」(Hunger Fight)の食事の箱詰めから、困っている子供たちのためのクマのぬいぐるみや毛布の縫製まで行ったのです。

コロンビアでは、扶助協会と若い女性ボランティアを含む教会員が、おもちゃを集めて病院にいる子供たちに寄付しました。初等協会の幼い子供たちは、絵を描いたり、手紙を書いたりしてそれぞれの寄付に添付して、寄付金を納めました。

青少年とヤングアダルトの奉仕

世界中の青少年が、4月26日から28日まで開催された「世界青少年奉仕の日」に参加しました。アーカンソー州では、約100人の青少年が集まって、地元の湖の周りのゴミ拾いをしました。カナダでは、教会と地域社会の200人以上のボランティアがJustServeを通じて登録し、困っている人々のために9万食をパッケージに詰めました。

教会の青少年とヤングアダルトは、年間を通じて奉仕に携わっており、奉仕プロジェクトを主導することも、よくあります。南バージニア大学では、ヤングアダルトがキャンパス内に「奉仕コーナー」を作り、学生が奉仕プロジェクトに参加して他の人たちと交流することができるようにしました。ユタ州で開催された大会では、何百人ものヤングアダルトが様々な奉仕活動に参加しました。フリースの毛布を作ったり、メンタルヘルス・コンフォートキットを作ったり、困っている子供たちのために食事を詰めたりしました。

ユニット内での奉仕

チリの山火事のために、何百もの集落や家屋が破壊され、多くの住民が住む場所や生活必需品を失いました。これに対応して、幾つかのステークの会員がペットボトルの水や生活必需品を配り、被災地の後片付けを行いました。

フィリピンでは、カンラオン火山の噴火後に避難を余儀なくされた人々のために、会員たちがボランティアで食料や衛生キット、飲料水、寝具をパックに詰めました。

「救い主は何とすばらしい模範を示してくださったことでしょうか。わたしたち一人一人が自分の手の届く範囲にいるたった一人にミニスターリングを行うことで、イエス・キリストの愛を世界中に広めることができるのです。」

—末日聖徒イエス・キリスト教会大管長
ラッセル・M・ネルソン大管長³



上から下へ：ワードで助けの必要な人のために食事を準備するトンガの扶助協会の姉妹たち。ガーナの子供の栄養状態を調べる検査をボランティアで手伝う教会員たち。



さらに詳しく

助けを必要とする人々への支援

奉仕する宣教師

奉仕宣教師

何千人もの奉仕宣教師が、食糧の生産と配給、求職者への支援などをして、教会の福祉と自立支援の事業を助けるために自らをささげています。「雇用サービス」を手伝う宣教師のロメル長老は、地元の事務所で電話に出ることによって、職を求める人たちに求人情報を提供します。「奉仕していると、自分にできることはたくさんあって、神はそれを大いなるものとしてくださるのだということを、わたしは知りました」と、彼は言っています。

災害時の救援活動

奉仕宣教師もティーチング宣教師も、災害救援で重要な役割を果たします。激しい嵐がスイスを襲った後、33人の若い宣教師がヴァレーに行って3日間、後片付けを手伝いました。この活動に携わったある宣教師は、そのときのことを振り返ってこう言っています。「わたしたちの活動によってここに住む人たちの生活がどんどん良くなっていくのを見て、とても感動しました。力を合わせることによって、……ほんとうに意味のあることができました」

1月、マグニチュード7.6の地震が日本の北陸地方を襲い、何万もの家屋が損壊しました。それにこたえて、地元の教会員と専任宣教師が一致して、後片付けや物資の配達、避難所や炊き出しの支援などを行いました。また、その地域の奉仕宣教師は、地元の機関と調整して、その地域に必要なことを提供する方法を決定しました。

地域社会での奉仕

宣教師は緊急支援にとどまらず、世界中で様々な地域社会の取り組みに携わり、奉仕の幅を広げています。ガーナのアクシムで教会は、クリサン難民キャンプの家族にマットレス、食料、水、蚊帳を寄付しました。その地域で奉仕する宣教師たちは、寄付された品々を自分の家に家族が運び込むのを助け、家を追われた家族に慰めと安らぎをもたらしました。

クリスマスの日、アルバニアの宣教師たちは、地元の孤児院のために手作りの毛布とクリスマスカードを作りました。テキサス州では、宣教師と教会員

がJustServeプロジェクトに参加して、「フードバスケット諸宗教フードバンク」(Food Basket Interfaith Food Bank)で床を改修しました。フードバスケットは、食料を集めて困っている人々に配り、地域の人たちを一つに結んでいます。こうしたささやかな奉仕の行いを通して、宣教師は世界中の人々が神の愛を感じ、物質面で安心することができるよう助けています。

「わたしは世界中の伝道部を訪問して、大勢のシニア宣教師たちの優れた奉仕を見てきました。彼らが『主の思いに従って』『主の業務』を喜んで行っていることは、明らかです。」

—十二使徒定員会、ロナルド・A・ラズバンド⁴



地元の農場で奉仕する日本の宣教師たち。





雇用センターで女性の求職活動を支援する、雇用サービス宣教師。



ビショップの倉で棚の補充をする姉妹宣教師。

多くの教会員が地域社会での奉仕に携わる一方で、宣教師として奉仕することにより、さらに多くの時間と才能を人道支援活動にささげる人もいます。

多くのシニアや夫婦、ヤングアダルトは、パートタイムまたはフルタイムの奉仕宣教師として奉仕しており、困っている人たちを支援するための地域社会のプロジェクトを組織して、それに参加しています。さらに、既婚の夫婦は、専任の福祉・自立宣教師として奉仕し、地域の人道支援プロジェクトを管理することにもできます。

若い専任宣教師も、定期的に地域社会での奉仕活動に携わり、必要に応じて災害後の後片付けを手伝います。



さらに詳しく

助けを必要とする人々への支援

JustServe (ジャストサーブ)

JustServeは、奉仕の精神を育み、地元で必要なものを提供し、地域社会との協力関係を促進する運動です。この無料のリソースは、個人や家族、グループが有意義な奉仕活動を見つけられるようにしています。そして、プロジェクトを投稿してボランティアを見つけることのできるプラットフォームを、地域にある組織に提供します。2012年の発足以来、JustServeは16万5,000件以上の社会奉仕プロジェクトを進めてきました。

JustServeに参加するよう、あらゆる年齢や経歴のボランティアたちにお勧めます。善い行いを分かち合うことで、与える人は人に希望を抱かせ、地域社会の内外に貢献します。

世界青少年奉仕の日

世界青少年奉仕の日には、南カリフォルニアの青少年240人以上が、高校のJustServeクラブが主催した奉仕活動に参加しました。80以上の地元の学校を代表するボランティアたちが結集し、中には何時間もかけてやって来る参加者もいました。このイベントでは、友情のブレスレットを作ったり、靴下や毛布を編んだり、退役軍人に手紙を書いたり、ポスターやパズルをデザインしたり、病院の子供たちのために「サンシャインボックス」を作ったりといった活動を行い、10以上の慈善団体の活動を進めました。

貧困下の子供たちへの奉仕

5月には、ラスベガスの青少年が協力して、ラスベガス・レスキュー・ミッション (Las Vegas Rescue Mission) で91の新しいベッドを組み立て、イーストバレー・ファミリーサービスでは古いベッドを再利用して子供たちにプレゼントする活動をしました。プロジェクトコーディネーターは当初、100人ほどの参加者を見込んでいましたが、驚いたことに、JustServeを通じて申し込んだボランティアの数は増え続けました。教会からの寄付によって支えられたこのプロジェクトは、困っている人たちが必死に求めているリソースを提供し、青少年が地域社会に参加する貴重な機会を提供しました。

諸宗教間の奉仕

キング牧師記念日には、様々な宗教から数え切れないほどのボランティアが集まり、地域社会への奉仕を行いました。例えば、インディアナ州では、キリスト教徒、ユダヤ教徒、イスラム教徒を代表する高校のJustServeクラブの10代の若者たちが、ウィーラー・ミッション・センター・フォー・ウィメンズ・アンド・チルドレン (Wheeler Mission Center for Women and Children) で奉仕プロジェクトを組織しました。若者たちは昼食を振る舞い、掃除をし、新たな友情を築きました。

4月、JustServeはアルゼンチンの全国ブックフェアにブースを出しました。そこでは2万3,000人のボランティアがJustServeに登録し、地元で行われているプロジェクトを見つける方法を学びました。ブースには教会員や他の宗教のボランティアがスタッフとして参加し、その結果、貧困下の子供たちにあげる学用品セットと励ましの手紙が数千人分用意できたのです。

「人々と一緒に奉仕することによって、背景や信条の違いのために交流することのない人々同士の架け橋を築くことができると、わたしたちは信じています。ただし、互いを思いやるという共通の価値観を通して結束するのです。」

—管理ビショップ、ジェラルド・コセー⁵

わたしにできること

- 地元の非営利団体のニーズを知る。
- 地域社会で行われる奉仕活動の募集広告をJustServeに投稿する。
- JustServe.orgで人に奉仕しましょう！





上から時計回りに：「世界青少年奉仕の日」に参加して、病院の子供たちへあげる、おもちゃや、子供の心を癒すアイテムを詰めた容器を作っている、カリフォルニアの青少年たち。アルゼンチンの全国ブックフェアでJustServeに登録するボランティアたち。ラスベガス・レスキュー・ミッションで新しいベッドを組み立てる教会員たち。ユタ州で川周辺のごみを清掃するボランティアのグループ。





全世界での取り組み

「イエス・キリストほど、勇敢な指導者も、思いやりにあふれた人道主義者も、多くの病気を治した医者も、創造的な芸術家もいたことがありません。」

管理ビショップリック第一顧問、W・クリストファー・ワデル⁶



詳しくは、このコードをスキャンしてください。

2024年 取り組みの概要



3,836

2024年度に行われた人道支援プロジェクト



1.45B

支出金額



6.6M

ボランティア活動を行った時間数



192

奉仕を行った国と地域の数

支出に含まれるもの：

- ◆ 惜しみなくささげられた支援
 - >> 世界規模の人道支援プロジェクト
 - >> 食料その他の物品の寄贈
- ◆ おもに教会員を対象に提供されるサービス
 - >> 断食献金による援助
 - >> ビショップによる物品の注文
 - >> 福祉および自立支援事業からのサービス

奉仕時間に含まれるもの：

- ◆ 教会福祉施設および自立支援施設におけるボランティア活動（ビショップの倉、缶詰工場、農場、果樹園、雇用センターなど）
- ◆ 多くの国々の助けを必要とする人々を支援する務め
- ◆ 災害後の片付けなど、教会主催の地域奉仕プロジェクト



地元地域の庭の手入れをする日本人夫婦。

「もちろんこれらの数字には、わたしたちが実際に提供し、支援したすべてが反映されているわけではありません。召しの中での互いのミニスタリングや、会員同士の自発的な奉仕など、会員の個人的な奉仕は含まれていません。また、〔概要〕には、教会の会員が教会と公式のつながりのない無数の慈善団体を通じて個人的に行っていることについても書かれてはいません。」

—
大管長会第一顧問、ダリン・H・オークス管長



2024年 一覽

助けを必要とする 人々への支援

会員と宣教師による奉仕

8,097,952

全世界の扶助協会会員数

12,277

福祉・自立宣教師の数

JUSTSERVE

地域社会での奉仕を可能とするプラットフォーム

134,143

JustServeの新規登録ユーザー

30,236

JustServeによる新規プロジェクトの数

全世界での援助

全世界での人道支援の取り組み

267

きれいな水、衛生、公衆衛生プロジェクト

710

災害時の救援活動プロジェクト

732

医療支援プロジェクト

71

モビリティ（歩行補助器具支援）プロジェクト

591

食糧安全保障プロジェクト

自立を育む

プログラムと奉仕

579

教育プロジェクト

10,809

デゼルト産業で働いた人

2,503

依存症立ち直り週例集会の開催数

128,028

自立グループ参加者数



さらに詳しく

助けを必要とする人々への支援



ブラジルのリオグランデ・ド・スル州で発生した深刻な洪水の後、飛行機から緊急物資を降ろすのを手伝う宣教師たち。写真/Divulgação Azulの厚意により掲載。

災害時の救援活動

自然災害や内戦といった地球規模の緊急事態が起こると、避難所や食料や水、災害後の片付け、情緒面での支援など、多くの課題が出て来ます。危機的状況にあるとき、教会は助けの必要な人に物理的な援助と精神面での支援の両方を提供することにより、希望とレジリエンス（困難や危機を乗り越える力）を育むことを目指しています。

心理的応急処置

心理的応急処置は、危機的状況にある個人やコミュニティが精神的苦痛に対処する方法を学ぶのに役立ちます。教会はファミリーサービスの組織を通じて、危機的状況に陥った多くの会員に現地で心理面での援助を提供しました。太平洋諸島では、ファミリーサービスのスタッフが、政治的混乱に対処している個人のために、メンタルヘルスのリソースを調整して提供しました。こうした取り組みは、多くの会員が精神的苦痛に対処し、ほかの人々に支援を提供するための助けとなりました。

教会はまた、ブラジルのポルトアレグレで発生した集中豪雨や、多くの犠牲者を出したチリの山火事、カリフォルニア・パーク大火災など、2024年に起こった自然災害では、被災した会員に対し、現地で精神面での支援を行いました。この心理的援助では、初期の苦痛を軽減し、対応するスキルを育むことによって、被災者たちを精神面で支えました。

ファミリーサービスのスタッフは、危機的状況が発生する前に地域での備えも行います。地元の教会指導者

は、自分のワードやステークで情緒的な備えの訓練を計画するために、ファミリーサービスの相談員に連絡することができます。例えば、ファミリーサービスの職員であるテレサとソニアは、カーボベルデで青少年に心理的応急処置、レジリエンス、情緒的な備えの原則を訓練し、緊急事態の備えをさせました。

さらに、教会はしばしば様々な組織と協力して、危機的状況にある人に情緒的なサポートを提供しています。ホンジュラスでは、教会は避難民に情緒的応急処置を提供するプロジェクトHOPEを支援しました。この協力のおかげで、困窮している多くの人々に助けの手が届き、困難な時期に思いやりのある支援を提供することができました。

物理的な援助

緊急事態が発生した場合、教会とその会員は、どの宗教に入っているかに関係なく、助けの必要な人々に物理的な援助を提供するために介入します。レバノンでは、教会は食料の小包、衛生キット、携帯用ソーラーライトなど、必要な品物を1万点以上の寄付することにより、避難民の家族を支援しました。ルーマニアでは、定住したウクライナ人が、言葉の壁や利用可能な保育所の不足のために仕事を見つけるのに苦労しました。教会は、食料と衛生キットと温かい食事をアソシアティア・ラ・ラスクルース（Asociația La Rascruce）に寄付しました。アソシアティア・ラ・ラスクルースは、困っているウクライナの人々にそれを





左：一時避難所の外で食事を作るシリアの女性。写真/ShelterBoxの厚意により掲載 右：ハリケーン「ヘレネ」の壊滅的な被害の後、抱き合う二人の女性。

配布しました。さらに、自宅から外出できない高齢者に温かい食事を届けるシステムも導入しました。

チリでは、教会と複数の援助団体が協力して、壊滅的な森林火災の被害を受けた人々を救援しました。被災地に仮設の教育施設や食料配布施設が設置されたのです。ビニャ・デル・マールとキルプエ、バルパライソの教会員は、物資を配り、後片付けを手伝う、というボランティア活動を行いました。教会はまた、被災した家族を支援するために多額の寄付をしました。

わたしにできること

- 非常時対応の必要な状況で支援する組織を通して認定ボランティアになる。
- 自分自身の緊急時のための計画を立て、起こり得る緊急事態に備える。
- 困難なときに指針にするために、教会のウェブサイトから心のケアカードをダウンロードする。

「わたしたちは、世界をすべての人にとってより良い場所にするために、近隣の人々や遠くの人々にミニスタリングをしようと努めています。」

—管理ビショップ、ジェラルド・コセー⁸

フィリピンでともに奉仕する

フィリピンでは2024年、超大型台風、火山噴火、火災、エルニーニョによる干ばつの影響など、幾つかの災害が発生しました。教会と政府の緊急対応サービスが救援物資を提供し、地元の会員はその物資の包装と配布のために時間と労力と愛をささげました。

セブ市のレイモンド・アルビン・ガルシア市長代理は、教会の支援に感謝の意を表しました。「セブ市の市庁は有権者を助け、奉仕するためにありますが、もちろん、すべての人を助けることはできません。そして今日、わたしたちが見ているように、提携先、民間セクター、そして教会が、市庁の仕事で手が回らない部分を果たしてくださっています。皆様のような機関が市庁の仕事を円滑に進められるよう助けてくださったおかげです。この市の有権者たち、特に山岳地帯のバランガイ〔訳注：フィリピンの最小行政区画〕のために多額の寄付をしてくださったことに感謝いたします。」



きれいな水と公衆衛生

きれいな水の確保と公衆衛生、衛生（WASH）は、健全なコミュニティを構築するための基盤です。地域社会には、全体的な衛生システムを改善し、病気の蔓延を阻止するために必要なツールと教育の両方が必要です。きれいな水と衛生に関する教会の取り組みは、信仰に関係なく、すべての人を対象に行っています。

WASHの取り組み

2024年、教会は、南アメリカ、アフリカ、太平洋地域の十数か国でユニセフが実施するWASHプログラムの取り組みを支援しました。ウガンダで教会は、貧困に苦しむ地域に安心して使えるきれいな水と衛生施設を提供するウォーターエイドの取り組みを支援しました。ボアホールとも呼ばれる8つの水道システムの設置に成功し、2,500人以上が恩恵を受けたのです。この新しい水道システムに加えて、新しい蛇口スタンドを設置する度に衛生と公衆衛生に関する指導を行いました。長期的に維持していくことができるようにするために、地元の人々に給水の操作と維持の訓練を行い、修理技法の教育を行ったのです。



エクアドルできれいな水で手を洗う少女。写真／ユニセフエクアドルの厚意により掲載。

きれいな水のための共同コミュニティ活動

コソボでは、カラレバ村に住む9つの大家族が、村の井戸が枯渇したために、危険とされる水源から水を缶に入れて運ばなければならなくなりました。教会は地元の人々と協力して貯水タンクを造り、すべての村人がきれいな水を利用できるようにしました。

バルカン半島には、時代遅れの水道が引いてある地域が多く、水道がない地域すらあります。冬の間は、暖房に使う電力のせいで電力の供給が逼迫することがよくあります。この問題に対処するために、教会はハニ・イ・エレジットの町の地域に予備の発電機を寄贈しました。この寄贈により、冬の間、住民はいつでも水が使えるようになりました。

安全な公衆衛生の実施

「わたしは『ここカスカスに何が足りないのか?』と自問しました」とアレクサンドラは当時を振り返って言います。最初に頭に浮かんだのはトイレでした。

アレクサンドラはペルーのカスカスに住んでおり、少なくとも20%の家庭に安全な衛生設備がないことを知っていました。安全な衛生設備がないために、地域社会はコレラなどの水系感染症のリスクにさらされる危険性が高かったのです。これに対処するために、アレクサンドラはペルーの地元の「すべての人に水を」（Water for People）チームが主催する衛生ビジネストレーニングに参加しました。

アレクサンドラは事業を始め、小さな店に流し台、蛇口、便器、タイルなど、家族がバスルームを完成させるのに必要な材料など、できるだけ多くの在庫を確保していました。現在、カスカスに住む家族はアレクサンドラの店で、家庭用バスルームの建設に必要な材料を購入することができます。

わたしにできること

- 自分の住んでいる地域での水と公衆衛生と衛生の取り組みについてさらに学ぶ。
- 手の洗い方を子供に教える。
- 水の貯蔵を始めて、非常時のためのきれいな水を別に確保しておく。



教育

教育は、しばしば自立するうえで非常に重要な役割を果たします。教会は、世界中の会員と友人たちが必要な教育を受けられるようにすることを目指して、個人が持てる能力を最大限に発揮できるようなリソースと支援を提供しています。

教会員向けのリソース

永代教育基金 (PEF) プログラムは、資格ある教会員に経済的な支援を提供し、良い所に就職して自立するための力になる教育を受けられるよう支援しています。教会の大管長会は最近、PEFの基金の恩恵にあずかることのできる人を増やすために、プログラムの修正を承認しました。承認された変更は、ローンの割引、ローン期間の延長、奨学金、および提供できる教育の種類の拡大などです。状況に応じて受給者は、住居費や設備費、交通費などについても、教育関連のその他の費用として永代教育基金から支給を受けることができるようになりました。

教会はそのほかにも、以下のような教育リソースを会員に提供しています。

- ◆ **BYU—パスウェイ・ワールドワイド**。会員がオンラインで手ごろな価格で高等教育を受けられるようにしています。
- ◆ **ベンソン奨学金**。栄養学および農業関連分野で高等教育を受けようとしている会員を支援します。
- ◆ **EnglishConnect**。教会員でない人も含め、興味のある人にはだれでも無料で英語を教えます。
- ◆ **Succeed in School**。青少年が成績を上げるスキルを身につけることができるよう助けます。

一般の人たちに提供しているリソース

教会はまた、改修工事や教師の訓練に資金を提供したり、机や椅子、インターネットアクセス、教科書などのサービスや備品を提供したりすることにより、教育に必要なものについて全世界で支援しています。教会はほかにも何百もの教育プロジェクトを行い、リベリアのサパイ公立学校の大規模な改修工事を行いました。トイレの改修工事、電気配線の設置、300脚の新しい椅子の寄贈などが行われました。この改修工事のおかげで、学校の収容人数が増加します。



数の教え方を教わっている日本人の少女。

永代教育基金による夢の実現

プリンセスは奉仕伝道から帰還すると、公認会計士になるという夢に目標を絞りました。高等教育を受ける費用は高額でしたが、永代教育基金のおかげで、フィリピンのカタンドゥアネスに住むこの若い女性は、目標に向かって勉強を続けるために必要な経済的支援を受けることができました。プリンセスは現在、会計学校の最終学年です。

「〔PEFは〕公認会計士になるというわたしの夢をかなえ、ラッセル・M・ネルソン大管長の勧告に従ってできるかぎり最善の方法で教育を受け続けるための架け橋になりました」とプリンセスは言います。「わたしは、主がわたしたちの義になかった望みを常に心に留めておられるという証を得ました。」

わたしにできること

- 宿題を手伝う。
- 教室でボランティア活動をする。
- 家族や友人が利用できる教育リソースについて本人に教える。





左：売り場でデゼルト産業の販売員を訓練するオペレーションスーパーバイザー。右：雇用センターで就職支援を受ける男性。

雇用

末日聖徒イエス・キリスト教会は、自立を促すリソースを提供することにより、個人を支援しています。これには、人々が雇用の機会を見つけて資格を得るのに役立つサービスやリソースが含まれます。

雇用サービス (Employment Services)

「雇用サービス」は、失業中の人、より良い仕事を探している人、あるいは再就職したい人のためのリソースです。〔訳注：現在は英語と幾つかの言語で閲覧可能です〕雇用宣教師は、様々な種類のサポートを提供します。

- ◆ 履歴書の書き方の指導
- ◆ 就職面接の対策
- ◆ 求人情報
- ◆ 人脈作り

「雇用サービス」は雇用センターを運営しており、教会員その他の人々がリソースにアクセスし、直接支援を受けることができるようにしています。求職者は、「雇用サービス」のウェブサイト employment.ChurchofJesusChrist.org にアクセスして、オンライングループやワークショップ、リモートコーチング、オンライン求人掲示板などのバーチャルサービスを活用するとよいでしょう。

2024年初めに、「雇用サービス」は全世界に拡大し、世界中の人の多くが雇用支援とリソースにアクセスできるようになりました。

デゼルト産業

デゼルト産業 (DI) はリサイクルショップであり、主に教会員や雇用の障壁に直面している人々のための職業訓練施設として運営されています。個人は、就職するという目標の達成を支援するDIのレディ・フォー・ワーク (Ready for Work) プログラムを通じて職業訓練や認定を受けます。レディ・フォー・ワークプログラムは、実践的な仕事のスキルを教えることに加えて、職場での成功に不可欠な行動スキルにも重点を置いています。

デゼルト産業の従業員は、業務スーパーバイザーや開発カウンセラーを含む正社員から訓練やアドバイスを受けています。2024年には、DIの全46拠点の運営スーパーバイザーたちが、一緒に働く従業員をさらにうまくサポートできるようにするための訓練に参加しました。訓練部会では、キャリア開発とリーダーシップの育成、処理基準、顧客サービス、人事などのトピックを取り上げました。

開発カウンセリングサービス

開発カウンセラーは、DIの社員や教会指導者から紹介された人が目標設定やキャリアプランニングを行うのを支援する資格を持った専門家です。彼らは個人の全体的な幸福とニーズを評価し、カウンセリングを提供し、職業評価と教育支援を提供します。

開発カウンセリングサービス (DCS) は、ファミリーサービス、デゼルト産業、「雇用サービス」など、



教会のほかのリソースと協力して、個人が雇用への障壁を克服できるよう支援します。DIの従業員は、レディ・フォー・ワークプログラムの一環としてDCSカウンセラーとともに働き、職場における重要な行動を学びます。また、開発カウンセラーはファミリーサービスおよび「雇用サービス」と密接に連携して、メンタルヘルスのサポートや就職支援のためにこれらのリソースを個人に紹介します。

「暫定支援サービス」〔注：一時的に生活支援をする教会本部でのサービス〕

教会には、全米に9つの「暫定支援サービス」事務局があります。「暫定支援サービス」は、出所者や人身売買から救出された女性、退役軍人、ホームレスだった人など、社会復帰のための支援を必要とする人ならだれでも利用することができます。

「暫定支援サービス」はおもに、雇用やメンタルヘルスサービスなど、地域社会や教会のリソースを紹介することにより、本人の自立を支援することに焦点を当てています。

人道支援センター

教会の人道支援センターは、デゼルト産業の店舗からの余剰寄付を人道支援のためにリサイクルし、処理しています。デゼルト産業と同様、このセンターは個人が就職に有利な技能を身に付けるための訓練の場としての役割を果たしています。多くの販売員は様々な国や宗教的背景から来ており、流暢な英語が話せません。販売員は、勤務時間内に英語を学ぶ機会があります。

「以前は、人を愛する最善の方法は、人を助けることだと思っていました。でも、考えてみると、人を助ける最善の方法は、愛することだと思うんです。」

—管理ビショップリック第二顧問、L・タッド・バッジビショップ⁹

夢見た仕事を見つけたディー

ディーは14年間の子育ての後、再就職を考えていましたが、何をしたいのかよく分かりませんでした。彼女は、ビショップから開発カウンセリングサービスを紹介されるまで、3つの異なる仕事をしてきました。

ディーは能力開発カウンセラーと定期的に会い、どの仕事か自分に最も適しているかを理解するために評価と性格テストを受けました。しばらく探した後、開発カウンセラーから、自分が勤めているデゼルト産業の管理事務員の職に応募するよう勧められました。ディーはすぐに、そのポジションが自分の性格と興味に合っていることに気づき、その仕事に就きました。「自分には居場所がないと自分に言い聞かせていたけど、結局居場所があるんだ！」とディーは言います。「ここにいられてとても幸せです。そして、開発カウンセラーにとっても感謝しています。」

わたしにできること

- 地元のデゼルト産業または類似の職業訓練リサイクルショップに物品を寄付する。
- 友人や家族の履歴書を見せてもらう。
- 教会の就職のためのリソースについてさらに学び、他の人にもその活用を勧める。



さらに詳しく

助けを必要とする人々への支援

環境に対する管理責任

末日聖徒イエス・キリスト教会は、困っている人々だけでなく、地球にも配慮する取り組みを加速させ続けています。個人と地域社会の福利は健全な自然環境と密接に結びついており、環境の持続可能性は教会の使命に不可欠な要素となっています。

2024年、教会はサステナビリティ・オフィスを拡張して、再生可能エネルギーとエネルギー効率の促進、節水、材料の無駄の回避、輸送による排出ガスの最小化、サステナブルな建物の設計と建設、サステナブルな農業と牧畜業の実践という6つの主要な優先事項にわたる世界的な取り組みの調整を図っています。

人道支援活動

環境の持続可能性は、教会の人道支援プロジェクトの多くに欠かせない要素です。食料安全保障、エネルギー自給、きれいな水の確保はすべて、気候変動への適応と強靭性の向上によって支えられています。

例えば、スーダンでは、教会が「アドベンチスト開発救援機関」(ADRA)に寄付をして、太陽光発電の送水ポンプを設置し、地元の水道委員会メンバーに適切な維持管理の訓練を行いました。一方、クルディスタンでは、教会は、太陽エネルギーを動力源とする4つの学校を建設する「カトリック救援サービス」の取り組みを支援しました。

機材の利用

教会のアメリカ合衆国とカナダでの事業では、古い電子機器はすべて埋立地への廃棄を免れています。その代わりに、教会は毎年何百台ものコンピューターを国内外の慈善団体に寄贈しています。再利用できない電子機器については、個々の金属その他の部品がリサイクルされます。

教会の旗艦印刷センターでは、聖典の製造からレッスンのマニュアルに至るまで、すべての余分な紙くずが丁寧に束ねられ、新しいパルプに変えられるために紙の供給業者に戻されます。

ラテンアメリカでは、教会の店舗がビニール袋や包装を、生分解性または再利用可能な代替品に差し替えて



太陽光パネルを使って太陽の力を利用している、メキシコのベテンブラヤデルカルメンにある教会の集会所。

います。さらに、ペルーを拠点とする雑誌の印刷では、持続可能な方法で調達された木材が使用されています。ブラジルでは、一部のユースカンファレンスでリサイクル可能なTシャツが使用されています。

「地球の豊かさと美しさを守ろうとするなら、この業の大部分は家庭という囲いの中で、家族の中で行われるでしょう。」

—
十二使徒定員会、バトリック・キアロン¹⁰

わたしにできること

- 再利用可能または生分解性の素材でできた袋と水筒を使う。
- バッテリー、医薬品、塗料などの有毒廃棄物を正しい方法で処分する。
- 製品を買い替えるのではなく、修理したり付加価値の高い物に作り替えたりする技術を身に付ける。



医療とモビリティ（歩行補助器具支援）

イエス・キリストは、現世での務めの間、身体的な障害や病気の人々の世話をされました。末日聖徒イエス・キリスト教会は、様々なプログラムを通じて、困っているすべての人にヘルスケアと歩行補助器具を提供することで、この使命を全世界で引き続き行っています。

眼科治療

パプアニューギニアのポートモレスビーで、教会は太陽光発電と麻酔関連の設備を備えた施設の建設資金を支援しました。目の健康システムの強化と、地元地域の眼科医療目標の達成を目的としたこの施設は、フレッド・ホロズ財団、パプアニューギニア国立保健省、地元の大学など、他の組織が協力して運営しています。また、研修プログラムは、卒業生が熟練した眼科医になるのに役立ち、パプアニューギニアの目の健康に永く続く影響を与えました。

予防接種

2024年、教会はエチオピアにおける予防接種率を上げるためのユニセフの取り組みに寄付を行い、ワクチンが入手しやすく、公平に接種されるようにしました。この協力により、国内の予防接種率が向上し、より多くの子供たちが予防可能な病気から守られ、エチオピア社会の健康的な未来が育まれるようになりました。

マレーシアでは、COVID-19のパンデミックで学校が閉鎖された後、50万人以上の女性には子宮頸がんワクチンを接種する機会がありませんでした。教会はマレーシア国立がん協会に寄付を行い、マレーシア東部に住む女性たちが命を救うこのワクチンを受けることができるようにしました。

すべての人への医療の提供

教会は、医療措置を必要としている人々のために、数多くのプロジェクトを支援しています。エクアドルのキトでは、教会は1万9,200人以上の人と家族にケアキットと衛生キットを提供して、彼らの生活環境を改善しました。ベネズエラでは、教会はプロジェクトHOPEと協力して、母親、介護者、子供たちに健康、栄養、心理的な支援を提供しました。

教会はまた、女性と子供の福利を目指す扶助協会の世界的な取り組みと連携して、妊産婦と新生児のケアを支援するプロジェクトにも力を入れています。アフリカには、新生児死亡率が世界で最も高くなっている地域が複数あります。これに対応して、教会はほかの組織と協力して医療従事者を訓練し、乳幼児の死亡を減らす助けをしています。アメリカ合衆国では、教会は「全米黒人地位向上協会」（NAACP）と協力して、全米の黒人社会における乳児死亡率を下げるために働いています。

シエラレオネでの車椅子の提供

末日聖徒イエス・キリスト教会からの寄付のおかげで、シエラレオネのフリータウンでは、何百人もの人が車椅子や松葉づえ、白杖を受け取りました。この支援は、地元の技術者や理学療法士のトレーニングと相まって、障害者の移動能力と自立を大幅に向上させました。

子供のころから這うことしかできなかったある人は、新たに見つけた自由と尊厳に深い感謝の意を表していました。

わたしにできること

- ワクチンについてさらに学び、学んだ知識を友人や家族に教えて、知らない人がいないようにする。
- 地元地域の視力検査や健康フェアでボランティアとして働く。
- 体調の悪い人のために食事を作る。



さらに詳しく

助けを必要とする人々への支援



夕食を作るのを手伝うガーナの子供たち。

飢えに苦しむ人々への食料の提供

飢えに苦しむ人々を支援するために、末日聖徒イエス・キリスト教会はまず彼らが早急に必要としているものを与え、次に自立するための長期的な計画を支援します。教会はこれを、緊急支援を必要とするプロジェクトに寄付したり、長期的な食糧安全保障に重点を置いたほかの組織と協力したり、独自の子供の栄養プログラムを運営したりすることで実現しています。

物品の寄付

教会は6か国122か所にあるビショップの倉を運営しています。食糧やそのほかの生活必需品が満載のこの倉は、地元の教会指導者が、自分たちのユニット内で助けを必要としている会員を支援するために使用しています。倉を利用できない地域では、教会はしばしば地元の食料品店チェーンと協力して、必要な物資を供給します。

会員の必要を満たすことに加えて、ビショップの倉は合衆国とカナダ各地の慈善団体に食料や必需品を配付しています。2024年には、ビショップの倉から3,900万ポンド（約3,300トン）以上の食料が人道支援団体とフードバンクを通じて寄付され、約3,200万食が助けに必要な人々に送られました。例えば、末日聖徒イエス・キリスト教会はユタ州ソルトレーク・シティーの「カトリック・コミュニティ・サービス」に寄付を行い、ホームレスの人々や、「カトリック・コミュニティ・サービス」のフードバンクからの支援を必要としている人々に食事と安全を提供しました。

スペインでは、教会は避難場所を求める最近の流入に対応して、エル・オガル・ブエン・サマリターノ（El Hogar Buen Samaritano）という団体を支援して、困っている人々に物資を運ぶための新しいワゴン車を調達しました。

会員に焦点を当てた子供の栄養摂取活動

世界中で0歳から5歳の子供たちの多くが栄養不良です。教会の「チャイルド・ニュートリション・インベストメント」（The Church's Child Nutrition Effort）は、会員の子供たちが身体的、精神的、霊的な潜在能力を最大限に発揮できるよう助けることを目的としています。子供たちは栄養不良の検査を受け、親や養育者は、子供たちの栄養状態の改善に役立つリソースの紹介と教育を受けます。プログラムがどこで行われるよう設定されても、その地域の在住者は参加できます。

会員中心のプログラムに加えて、教会は子供の栄養を優先する他の世界規模の組織も支援しています。2024年6月、教会は妊産婦ケアと子供の健康に貢献する8つの団体への寄付を発表しました。教会はまた、栄養不良を治療する救命食品を製造しているエデシア・ニュートリション社に500万ドルを寄付しました。このような大規模で世界規模のプロジェクトに加え、教会は、トンガタブおよびトンガの離島に住む約2万1,000人の生徒にサービスを提供するトンガ教育訓練省の学校向け無料朝食プログラムへの寄付など、世界各地での取り組みを支援しています。



「飢えに苦しむ人々へ食事を提供すること以上に、キリストの教会の基本的な人道支援活動はありません。……ともに奉仕するときに、キリストの愛にあふれた御腕を差し伸べる範囲が広がります。」

—中央扶助協会会長、カミール・N・ジョンソン会長¹¹

食料不安の解決における自立

自立の原則は、自分自身と他の人々を養う力を人に与え、精神的な健康を改善し、地域社会とのつながりを育むことです。これが、教会がこれらの原則を支持する世界的なプログラムや組織と協力して働いている理由です。

ハンガリーでは、貧困に苦しむ家族が養豚場を開拓するのを助ける「ポドヴァ渓谷女性ロマ協会のプロジェクト」に寄付を行いました。このプロジェクトにより、約100人が食糧を生産し、生計を立て、その地域の食糧不安を軽減できるようになります。

ガーナでは、教会は、農業訓練と農機具を提供する「国際開発事業」(iDE)のプロジェクトに資金を提供しました。これは、家族が生計を立て、余剰の穀物売ってその他の長期的に必要なものを賄えるようになるための助けとなります。このプログラムの参加者であるシェイは、最終的には自分で育てた穀物売って、子供たちと地域の別の子供たちが学校に戻るための費用を支払うことができました。

教会はまた、ベンソン奨学金を引き続き提供し、教会員が農業を中心とした教育を受けられるように支援し、地域社会の農業のやり方を改善しています。

フリオが自分の可能性を最大限に発揮できるよう助ける

グアテマラで、フリオは未熟児として生まれ、急性栄養失調に陥りました。母親は、教会の「乳幼児栄養改善運動」(Child Nutrition Effort)が行っている検査にフリオを連れて行って栄養状態を調べてもらいました。そこで支給された栄養補助食品を摂取すると、母乳を通してフリオに栄養が行くのです。生後6か月になると、フリオには直接食べる栄養補助食品が与えられました。フリオは現在4歳で、急性栄養失調を克服し、間もなく理想の体重になります。「乳幼児栄養改善運動」のおかげで、フリオは精神的にも肉体的にも自分の可能性を最大限に発揮できるようになりました。



MUAC (中上腕周囲長) テープを使って、ウガンダ北東部の干ばつに見舞われた地域の子供たちの栄養状態を検査するユニセフの職員〔訳注：中上腕周囲長を図ることによって栄養不良でないかどうかを調べることができる〕。写真/ユニセフの厚意により掲載。

わたしにできること

- 地元のフードバンクでボランティアをする。
- 畑を作り、収穫物を近所の人と分かち合う。
- 地域の人たちをワードの自立グループに招待する。



さらに詳しく

助けを必要とする人々への支援

住宅支援

自然災害や紛争その他の惨事後、多くの人々が避難所を必要とすることがよくあります。教会は、人々がこれらの困難な状況から立ち直るのを助けるために、世界中の住宅支援活動を支援しています。また、信頼できる組織と協力して、より恒久的な住居に移ってもらったり、新しい家や施設を建設して家具を供給したりしています。



メキシコで、寄付された一時避難所で暮らす避難民。

紛争から逃れた後に住居を見つける

世界中の多くの人々が、紛争から逃れるために故郷を出なければならないという現実と直面しています。住居や生活必需品が安定しなければ、精神面の健康や教育、働く能力、その他の生活面に甚大な影響が出ます。カメルーンのミナワオ難民キャンプでは、キャンプに到着した避難民にテントを含む必需品を提供するシェルターボックスの取り組みを教会が支援しました。この支援は、安全に眠れる場所を提供しただけでなく、家を作り、家族と一緒に住んで生活を立て直すことができるようにしました。

自然災害後の再建

自然災害の後、被災した人々には、がれきの撤去から自宅の再建や家具の張り替えまで、復興への長い道のりが待っています。2024年2月、チリのキルブエ、ビジャ・アレマナ、ビニャ・デル・マールのコミュニティが大規模な火災に見舞われました。これは、過去10年間で最も大きな火災となりました。

教会は、チリのデサフィオ・レバンテモスと協力して、教会の資金でギフトカードを何百枚も作り、住民が建築や家具を購入することができるようにしました。このギフトカードは重要な財政支援の提供となり、そのおかげで人々は生活の再建に取り掛かることができるようになりました。

仮設住宅が家になる

カルトゥーミと幼い子供たちは、ある夜、身の安全のために着の身着のまま家を出なければなりません。ミナワオ難民キャンプに無事到着した後、カルトゥーミは教会とシェルターボックスの支援により、少人数の家族用のテントを支給されました。テントは彼らの家になりました。そして、カルトゥーミは今、子供たちに食べさせるためにテントの外でピーナッツや野菜を育てています。

「わたしは野菜作りが大好きです。だれにも頼らずに家族を養えるからです」と彼女は言います。仮設住宅は、彼女が家族のために新しい生活を始める機会を与え、自立を図る場所となったのです。

わたしにできること

- 屋根の修理や張り替えを手伝う。
- 地元にあるホームレスのためのシェルターでボランティアとして働く。
- 困っている家族に古い家具を寄付する。



メンタルヘルス

精神的、情緒的な苦みがあると、人は喜びを感じにくくなったり、人との交流や神への祈りが億劫になったり、自分の価値を信じることができなくなったりすることがあります。教会は、このような問題に直面している人が安らぎや希望を見いだして立ち直れるようにするために、幾つかのプログラムとリソースを提供しています。

ファミリーサービス

精神面や情緒面の健康に問題がある教会員、または問題行動の見られる教会員は、ビショップを通してファミリーサービスに紹介してもらうことができます。会員と相談しながら、地域の提供者への紹介、自助リソース、無料のファミリーサービススキルクラス、グループセラピー、個別カウンセリングなどの中から、本人に合ったリソースを見つけます。

ファミリーサービスでは、以下のサービスも提供しています。

- ◆ 宣教師へのカウンセリング
- ◆ 指導者のためのヘルプライン
- ◆ 心理的応急処置の訓練と介入
- ◆ 情緒的自助ワークシート

2024年、教会の依存症立ち直りプログラムは、救い主の癒しの力を反映するために、『救い主を通して癒される：アディクションからの立ち直りプログラム』という名称に変更されました。秘密厳守で行われる、この無料のプログラムは、依存的で強迫的な行為に苦しむ教会員その他を支援します。〔訳注：依存症という言葉に代わり「アディクション」という言葉を使っています〕また、最新の『立ち直りの12のステップガイド』などのリソースのほか、立ち直りの道を歩んでいる人の家族へのサポートを提供しています。

メンタルヘルス関係のその他のリソース

教会は、教会員やメンタルヘルスの支援を求める人のために、『主に力を見いだす：レジリエンスを高める』コースなど、幾つかのリソースを提供しています。2024年に幾つかの言語でリリースされたその他のリソースは、以下のとおりです：

- ◆ **心のケアカード (Emotional care cards)**
：これらのカードは、自分自身の感情的な問題に対処し、ほかの人をサポートすることについてアドバイスします。
- ◆ **メンタルヘルスをテーマにしたウェブページ**：メンタルヘルスの問題で苦しんでいる人々を助けるための実践的なガイド。

「互に重荷を負い合いなさい。そうすれば、あなたがたはキリストの律法を全うするであろう。」

—ガラテヤ6：2

依存症立ち直りプログラム 救い主を通して癒される

『救い主を通して癒される：アディクションからの立ち直りプログラム』で利用できるリソースを通して、リシは依存症を克服し、生活の質を高めて前進しました。このプログラムの12段階のプロセスは、自分の問題に立ち向かい、人と交流し、イエス・キリストの贖罪をよく理解するための助けになります。リシは現在、心を落ち着かせ、二人のかわいい子供がいる家庭を持ち、アディクションを克服しようとしている人々を支援しようとしています。

わたしにできること

- お住まいの地域にアディクション立ち直りグループがない場合は、地元の教会指導者にそのグループを作ってもらえないか問い合わせてください。
- 心理的応急処置について知る。「認定コース」を見るといいかもしれません。
- 地元の集会でメンタルヘルスに関する会話を促すために、心のケアカードを使うことを検討する。



さらに詳しく

助けを必要とする人々への支援

自立

教会は、すべての人が自立し、家族や地域社会のために働く能力を高めることができるようにすることを目指しています。人は自立すると自信が持てるようになり、自分の可能性を最大限に発揮できるようになります。

自立グループ

個人が自立するのを助けるために、教会は幾つかのコースを提供しています。

- ◆ 『始める、育てる、わたしのビジネス』
- ◆ 『個人の財政管理』
- ◆ Emotional Resilience
- ◆ 『より良い仕事に就くための教育』
- ◆ 『より良い仕事を見つける—自立へ向けて』

フランスのパリでは、あるステーキ会長がステーキの指導者のための訓練部会を開いて、各ワードに福祉・自立スペシャリストを召すようお願いしました。召されたスペシャリストたちは自立グループの運営方法を学び、地域の多くの人々を自立の道へと導いてきました。

ある夫婦は、『個人の財政管理』グループと『始める、育てる、わたしのビジネス』グループに参加し、この二つのコースが自分たちの生活をどう変えたかを話してくれました。「自立グループと自立支援コースは靈感にあふれていて、『能力を目覚めさせ、伸ばす』ための助けになります。このコースを受けたことに感謝しています。5年経った今でも、その祝福を日々感じています。」

自立支援の取り組み

リベリアでは、教会は世界食糧計画の農業訓練、農業協同組合、アグリビジネスセンターの取り組みに寄付しました。これらのプログラムは、従来の農法を改善し、作物の収穫量を増やして、収入を増やす方法を、リベリアの農民に教えました。さらに、教会はセンターや倉庫の建設に資金を提供し、農業の効率を高め、地域社会を助けました。

ブラジルでは、教会は移民の就職を有利にするために、ポルトガル語訓練コースを支援しました。

自立支援コースを通して力を得る

ファニータは3年間ホームレス生活を送った後、教会を見つけ教会に入りました。その後間もなく『より良い仕事に就くための教育』の自立支援クラスを受講した彼女は、「それ以来、わたしの生活は一変しました」と言っています。

その後、ファニータは『個人の財政管理』と『レジリエンスを高める』の両方のコースを受講しました。「どのクラスも、自分自身について何かを教えてくれました」と彼女は言います。ファニータは現在、大学のクラスに登録していますし、生活費を稼ぐことができます。そして、最終的には人事部で働くことを目指しています。

わたしにできること

- 地元の自立グループに参加する。
- クラスで教え、自分の持つスキルを分かち合う。
- 自立を支援するプロジェクトにボランティアとして参加する。



雇用センターで仕事を探す女性。



「若い人々や家族が求めているのは施しではなく、自ら進んで行く奉仕です。」

—世界食糧計画USAの会長兼CEO、バロン・セガー¹²



上から時計回りに：リベリアでコミュニティ菜園に水をやる農夫たち。店で物を売るトンガの女性。ムスリム・エイド（Muslim Aid）との協力により、ミツバチの巣箱と養蜂に関する教育を提供されているボスニアの人たち。地元地域の人たちに読み書きを教える扶助協会の姉妹たち。



さらに詳しく

助けを必要とする人々への支援



全世界での援助

「もしわたしたち一人一人が、愛し、仕えるという救い主の模範に心から従い、自分とは非常に異なっていると思う人々を個人的に知るならば……わたしたちは真にキリストにあって一つとなるのです。」

—
中央扶助協会会長会第一顧問、J・アネット・デニス¹³



詳しくは、このコードをスキャンしてください。



ユニセフが支援する指導・育成センターで遊んでいるコンゴ民主共和国の生徒たち。写真／ユニセフの厚意により掲載。

アフリカ

わたしたちの目標は、人が生活に最低限必要なものを自分で賄えるようになり、自立して、地域社会の力になれるようにすることです。この目標を達成するために、教会はアフリカ全土のコミュニティーに食料、教育、飲料水と公衆衛生設備を提供する取り組みを支援しました。

食料と飲料水の確保

「世界水の日」に、教会はナイジェリアのムボシ・アジ・コミュニティーに1万リットルの水を供給できるボアホール（モーター駆動式井戸）と新しいトイレ設備を寄贈したことを発表しました。このプロジェクトは、ウォーターエイド・ナイジェリアと協力して、コミュニティーにきれいで新鮮な水を提供し、適切な公衆衛生と衛生管理ができるようにしました。

ジンバブエでは、教会は新しい水道システムを導入することにより、ジンブリー小学校できれいな水が使える

るようにしました。校長と教師は新しい設備の完成を祝いました。女子生徒が機能的なシャワーを使い、学校の庭に十分な水をまくことができるようになったおかげで、毎月の欠席人数が少なくなったのです。

教育

ガーナにあるフォアス・スクールでは、教室の数が足りず、機能的なトイレもないことで、生徒たちは困っていました。教会はおよそ1,000人の生徒用に10教室のある新校舎とトイレ施設、井戸を提供しました。それに加えて教会は、飲める水を作るために、ろ過装置も提供しました。これらの改善により、学生にとっても職員にとっても学校が安全な場所になり、生徒の出席率が上がりました。

教会はまた、幼児教育に焦点を当てたユニセフのプロジェクトに献金することにより、教育イニシアチブを支援しました。この取り組みにより、学校に通ってい

「世界では22億人以上が、安全な水と衛生設備が確保できていない環境で生活しています。これは、世界中の人々と政府にとって大きな緊張の元になります。世界水の日は、新鮮な水と持続可能な衛生設備が必要だという意識を高めるために毎年祝われています。」

—ウォーターエイド・ナイジェリア¹⁴のエヌグ・コーディネーター、ソロモン・アクパヌフォット





左：村の井戸からきれいな水を汲むリベリアの女性。右：プロジェクトHOPEがシエラレオネの教会と共同で主催する「新生児蘇生法」の訓練に参加する助産師たち。

ない6,000人の子供たちに代替学習プログラムや遅れを取り戻すためのクラスを提供し、14万人の子供たちが質の高い教育を受けられるようにしました。

医療と障害

ガーナのヌウィンサでは、地元政府が診療所を建設しましたが、近くには医療スタッフが借りる部屋がありませんでした。そこで住環境を整えるために、教会は看護師の宿舎を建設し、医療スタッフが安全に生活できるようにしました。また、敷地内には、寄贈された機器を使用するのに不可欠な医療機器や電気システムも設置されました。

マリでは、教会の寄付のおかげもあり、ユニセフは世界中の母親と子供を危険にさらしている母子破傷風(MNT)の撲滅に成功しました。母子破傷風は毎年何万人もの乳児の命を奪っており、これにかかった乳児はほぼ全員、治療可能な施設に搬送しない限り助かりません。そのため、破傷風が蔓延する国の女性と子供にとっては命を脅かす問題になります。母子破傷風の撲滅というマリの目覚ましい成果は、同国とユニセフを含む幾つかの信頼できる組織が総力を挙げて働いた努力の証です。

紛争後の食料安全保障の提供

紛争が終わり、ナディアは最近、南スーダンに帰国しましたが、そこでは帰国者の急増のために、人道支援活動を緊急に行わなければならなくなっていました。ケア(CARE)と教会が協力して働いてくれたおかげで、ナディアのほか1,300世帯に、帰国後の生活の立て直しの支援として、基本的な食糧が届きました。ナディアはこれから3か月間、家族の食べ物を用意することができるようになったのです。

「スーダンから帰国はしたものの、食べ物がなかったので、わたしたち家族は絶望していました」とナディアは言います。「助けてもらえて、心底ほっとしました。」

わたしにできること

- 地元地域での水と公衆衛生、衛生設備の取り組みについてさらに学ぶ。
- 継続的なニーズについて地元の食糧提供施設に話す。





子供たちに本を読んであげている、日本にいる女性。

アジア

2024年、アジアでは各地で自然災害が相次ぎ、人道支援を必要とする人たくさん出ました。教会とその会員は、思いやりと愛をもって被災者たちの支援を行い、地域の人たちに救援物資を届けました。さらに教会は、地域が自立できるようにするために、教育と医療の支援を優先的に行いました。

教育

モンゴルでは、教会は農村部の中学校にコンピューターを提供するプロジェクトを支援しました。教会は教育省と協力して、モンゴル西部の中学校に1,000台の学校用コンピューターを届けました。このプロジェクトにより、約4万3,000人の生徒に豊かな教育の機会が与えられました。

質の高い教育を受けることができない若い学生が、カンボジア全土にはたくさんいます。2024年、教会は、学生のために安全で持続可能な学習環境を作るために、幾つかの建設・改築プロジェクトに資金を提供しました。これらのプロジェクトでは、過密状態を緩和するための新しい教室の建設、安全性を高めるための施設の改修工事、メンテナンスが必要な施設の修理などが行われました。

医療ときれいな水

2024年、教会は、医療施設の更新、障害者への支援、水と衛生関係の取り組みなど、質の高い医療を提供するためのアジアでの取り組みを支援しました。

インドネシアでは、教会は下肢義肢を寄贈して、足の不自由な人が学校に行ったり、家族を養ったり、地域社会に参加したりすることができるようにしました。

東ティモールでは、教会は遠隔地の村々で切望されていた水を届けるプロジェクトに取り組みました。これらの村に住む個人や家族を支援するために、貯水タンクが購入されました。この取り組みにより、水が手に入らない人たちの生活の質が大幅に向上しました。

緊急対応

教会員は「互いに重荷を負い合〔い、〕……悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰め」（モーサヤ 18：8-9）るために努力しながら、様々な自然災害の被災者に緊急支援を行いました。

4月、インドネシアでルアン火山が噴火しました。これに対して、教会は地元政府やそのほかの組織と協力して、約3,600人の避難民に避難所や衣類、その他の必需品を提供しました。

この年、アジアではほかにも、自然災害に見舞われた地域がありました。1月には日本の能登半島を地震が襲い、これに対応して、教会は歴史的建造物の保存を支援するための資金を寄付しました。この寄付は、地域内の神聖な宗教的な神社や寺院の修繕費を賄うのに使われました。教会員はまた、地震で破壊された地域の後片付けのために、休むことなく働きました。





左：新しいアパートへの引っ越しを手伝う韓国の宣教師たち。右：寄贈されたコンピューターを学校で使うモンゴルの子供たち。

家と生活の再建

ミラの家はマレーシア東部の洪水で甚大な被害を受けました。近所の人たちと同じように、ミラとその家族も家のがれきを片付け始め、水が引いた後は生活の立て直しに取り掛かりました。家財道具の多くは失くなり、残ったものは壊れています。ミラのベッドもそうです。ミラは、教会が分配した寄付のおかげで用意できたマットレスと寝具を受け取りました。なんとか生活を立て直そうと奮闘していたミラは遂に、夜、清潔なベッドに安心して寝られるようになったのです。

仮名です

「わたしたちは皆、互いに助け合う兄弟姉妹です。教会からの愛を感じます。改修工事が済んだ建物は見事です。患者たちはここで治療を受けることができ喜んでいきます。病院がきれいになり、衛生状態も良くなりました」

—コンボントム副知事、ニエク・バン・ケン¹⁵

わたしにできること

- 地元の学校でボランティアで家庭教師をする。
- 近所で生活に困っている家族のために食事を作る。
- 地元のシェルターに清掃用品を寄付する。



さらに詳しく

助けを必要とする人々への支援

オーストラリア、フィリピン、太平洋地域

太平洋地域における教会の人道支援活動は、火山、サイクロン、洪水など、この地域に影響を及ぼす多くの自然災害に対して行われることがよくあります。教会はまた、志を同じくする太平洋地域の団体と協力して、子供の栄養状態の改善や飲料水を確保するシステムの向上など、地域のその他のニーズに対応して支援しています。



ボランティアで家の修復作業を手伝う、ニュージーランドのヤングアダルトと宣教師たち。

緊急対応

ニュージーランドの北島の多くの住民は、2023年に島に壊滅的な打撃を与えたサイクロン・ガブリエルの影響をいまだに感じています。この災害後の苦労を軽減するために、教会は大きな被害を受けたワイロアの地域で家屋の再建を支援しました。

フィリピンのネグロス・オクシデンタル州で、教会はカンラオン火山の噴火後に避難した80世帯以上の家族に、食料パックや飲料水、寝具、衛生キットを提供しました。

児童栄養支援

教会は、子供たちが精神的、肉体的、霊的に潜在能力を最大限に発揮できるよう、世界中の子供の栄養状態を改善することを優先事項としています。この取り組みは、多くの地元での貢献がこの大義を支えているフィリピンでは特に重要です。教会は、栄養不良の子供たちを助けることに重点を置いた、地元の子供の栄養に関する取り組みに加え、トンガの教育省と協力し

て、栄養不良の危険にさらされている学齢期の子供たちに、168の学校で朝食を提供しました。

きれいな水

教会は太平洋地域における人道支援プロジェクトのために数百万ドルを寄付し、それによりユニセフはバヌアツ、ソロモン諸島、パプアニューギニアで水と衛生設備のプログラムを実施することができました。さらに、教会はパプアニューギニアの学校の水道施設を改善するというウォーターエイドのプロジェクトへの資金提供もしました。

成長の節目を迎えて

フィリピンのパンパンガでは、当時4歳のアマラが、教会が運営する地元の子供の栄養プログラムで検査を受けました。検査の結果、アマラは栄養不良だということが分かりました。彼女は微量栄養素の粉末とビタミンサプリメント、そして薬による治療を受けました。食事の改善も行われ、欠けている栄養素を補う食品を食べるようになりました。さらに、アマラの両親は適切な栄養、衛生習慣、育児について教育を受け、家族は支援を受けてきれいな水をたやすく手に入れることができるようになり、保健施設へも簡単に行けるようになりました。

これらの努力を通して、アマラ健康状態は徐々に良くなっていきました。彼女は現在、年齢の標準体重の範疇にあり、重要な発達を目安に達しています。

わたしにできること

- 困っている人々の世話をする機会を地元で探す。
- 子供たちが栄養価の高い朝食を取れるようにする。
- 手の洗い方を子供に教える。



カリブ海地域

2024年、教会はカリブ海地域の生徒たちが「研究によって、また信仰によって学問を求め〔る〕」（教義と聖約88：118）ことができるよう助ける教育イニシアチブを支援しました。教会とその会員は、医療と緊急対応の取り組みを通じて、困っている人々を救援することにも重点を置きました。

教育

教会はカリブ海地域において、教師と生徒のために、安心して勉強ができる現代的な学習環境を作るプロジェクトに取り組みました。例えば、スリナムのパラマリポの教会員は、地元の3つの学校を修復し、地域の子供たちが良い学習環境で勉強できるようにしました。

医療支援

個人の健康に気を配ることで、人は自立し、ほかの人を思いやることができます。教会の寄付のおかげで、チャリティ・ビジョンはドミニカ共和国の学校で何千人もの子供たちに視力検査を受けさせることができました。検査の結果必要だとされた生徒には眼鏡を支給して、学校の中でも外でも、快適に学習ができるようにしました。

緊急対応

ハリケーン・ベリルが多くの地域を襲って壊滅的な被害を与えましたが、その後、周辺地域の教会員がボランティアとしてユニオン島まで出かけて行き、食料や衛生キットなど、切実に必要とされている物資を届けました。会員たちはまた、他の組織と協力して、ハリケーンによるがれきを道路から撤去する作業を行いました。



一緒に奉仕プロジェクトを計画するジャマイカのヤングアダルトたち。

質の高い教育の提供

ジャマイカのガーベイ・メイセオ高校で、農業部長のビンセントは、技術クラスや職業クラスを教えるための特別な機器を受け取りました。

ビンセントはこの寄付についてこう言っています。「この贈り物を大切に扱い、この祝福に感謝しながら使うことを、わたしたちはお約束します。」現在、彼女の生徒たちは寄贈された機器で蜂蜜を生産し、将来自立して家族を養えるようになるスキルを学んでいます。

わたしにできること

- 子供と一緒に本を読む。
- 医者に行く手立てのない人を車で送る。
- 地域の清掃活動を手伝う。

「わたしたちが助けを必要とするとき、主は助けを必要としている人へと導いてくださいます。そして、主の安らぎを人に与えるときに、主の中に自分自身の安らぎを見いだすのです。」

—中央扶助協会会長会第二顧問、クリスティン・M・イー姉妹¹⁶



さらに詳しく

助けを必要とする人々への支援



会員に焦点を当てた子供の栄養摂取活動で子供の体重を測る医師。

中央アメリカと南アメリカ

自然災害のさなかに、教会員は困っている隣人に目を向けます。中南米では、自然災害のために、多くの人に避難所を用意し、食料その他の救援物資を支給する必要が生まれました。教会は2024年にこの地域で、食糧安全保障、教育、医療の取り組みとともに、災害救援活動を優先的に行いました。

災害時の救援活動



写真提供：Oscar Leiva/Silverlight for Catholic Relief Services

末日聖徒イエス・キリスト教会は、深刻な洪水のために20万人が避難し、90人以上の死者を出したブラジルのリオグランデ・ド・スル州の洪水被災者に、なくてはならない支援を行いました。教会は避難所を21棟建て、梱包された食料を支給し、マットレスや衛生キットなどの救援物資を6トン届けました。さらに、

教会員は物資を寄付し、清掃活動に参加して被災者を支援しました。

パラグアイのミストラールという町は、何年にもわたる干ばつのために深刻な水不足に陥っていました。教会は、この地域に水を供給のために、資金を提供して雨水貯水槽と移動式貯水タンクを設置しました。

チリでは、教会員が互いに仕え合い、広範囲に被害をもたらした激しい山火事の被災者に、集会所を避難所として開放し、食事キットを配り、支援物資を支給しました。

食糧安全保障

ニカラグアでは、教会は子供たちに学校給食を提供する世界食糧計画の取り組みに資金を提供しました。このプロジェクトには、全国の学校のインフラと調理場のグレードアップも含まれており、生徒の学習環境を改善しました。

教育支援

アルゼンチンでは、教会は学生への奨学金支給のために資金を寄付しました。この奨学金はカリタスのプラン・エマウスの一部で、全国にいる多くの貧困学生を助けて将来の就職を有利にし、自立できるように支援します。



医療支援

2024年、教会はボリビアのラパスで、献血運動で果たした大きな役割が評価されました。困っている人々に惜しみなく献血した会員のおかげです。

教会はまた、作戦スマイル・ペルーのダニエル・アルシデス・カリオン国立病院での第99回手術プログラムを支援し、口唇口蓋裂の子供たちを助けるために必要な物資を提供し、医師による診断断を行いました。

わたしにできること

- 地元の献血活動で献血する。
- JustServe.orgを使って、地域社会で奉仕する機会を見つける。
- 災害後、近所の清掃活動に参加する。

献血と愛

エルサルバドルのサンサルバドルにあるベンジャミンブルーム国立小児病院の血液バンクの責任者であるアルファロ博士は、病院に献血してくれた教会員に感謝の言葉を述べました。

教会員や友人を含む100人近くが、隣人への愛を示すためにサンサルバドルステークの献血活動で献血しました。アルファロ博士はこう言っています。「この献血のおかげで、病院に血液を供給し、少なくとも230人の子供たちに緊急対応を行うことができました。これは紛れもなく、真の愛の行為です。」

「信仰と奉仕と犠牲は、今の自分を超越して救い主に近づくことができるようにしてくれます。わたしたちの奉仕と犠牲が、主にとってより慈しみ深く、信仰にあふれ、無私の精神に基づいたものとなればなるほど、イエス・キリストの贖いがもたらす、わたしたちに向けられた慈しみと恵みに対する理解が深まっていくことでしょう。」

—十二使徒定員会、ゲレット・W・ゴング¹⁷



休み時間に食事をするホンジュラスの生徒たち。写真提供：Oscar Levia/Silverlight for Catholic Relief Services.



さらに詳しく

助けを必要とする人々への支援

ヨーロッパ

自然災害と政治的な対立は、2024年にヨーロッパが直面した多くの課題の一つでした。これにこたえて教会は、災害救援、社会的弱者、食料安全保障に焦点を当てた、この地域における数多くの人道支援プロジェクトに資金を提供し、協力しました。

緊急対応



激しい暴風雨が去った後の片付けを手伝うスイスの宣教師たち。

トルコはまだ、2023年の大地震からの復興途上にあります。教会はほかの組織と協力して国内の地域を再建し、学校を再建し、きれいな水を供給する水道システムを導入するプロジェクトを行いました。

ウクライナでの紛争は広範囲に渡って危機的な状況を引き起こしました。そのため、2024年にはこの地域で55の人道支援プロジェクトが実施されました。その一つがケアとの協同プロジェクトです。教会の資金援助により、ウクライナの人たちに衛生キットや食料以外の物資および防寒キット、ハイブリッドエネルギー貯蔵システムを提供しました。ロシアでは、教会は大規模な洪水に対応するプロジェクトに資金を提供し、困っている人々に必需品を提供しました。

社会的弱者への支援

プロジェクトHOPEへの教会からの寄付により、女性や高齢者、障害者を含むモルドバの避難民に医療が提供されました。教会はまた、ギリシャ、ノルウェー、チェコ共和国を含むヨーロッパ各地の社会的弱者に食料品のパッケージや衛生キットを寄付しました。

食糧安全保障

ウクライナに当面必要な食糧を届ける必要があることを知り、世界食糧計画は教会の寄付によって、一人につき1年分の食料を支給することができました。教会はまた、ムスリム・エイドと引き続き協力して、ボスニアの人々が自立への道を歩めるよう助けています。ムスリム・エイドとの協力により、温室やミツバチの巣箱、妊娠中の未経産牛が提供され、各世帯が自分自身と家族を養うことができるようになっていきます。

トルコの赤ちゃん靴下

エリカはドイツの扶助協会の姉妹で、だれでも困っている人に奉仕できるすばらしい模範です。家族や友人のために定期的に赤ちゃんの靴下を編んでいます。そこで、クリスマス休暇中には約50足編んで、乳児や新生児のいるトルコの家族に贈ることにしました。

トルコのアンタキヤにある難民キャンプでは、ある夫婦がこの靴下を受け取って大喜びしていました。この地域に幾つかある移動病院でも、喜んでいる夫婦が何組もいました。このささやかで簡単な寄付を受け取った人は皆、エリカの親切な行いに感謝し、神の愛を感じました。

わたしにできること

- 困っている人に、食べ物や衛生キットを寄付する。
- ヨーロッパの貧困者を支援するプロジェクトを[JustServe.org](https://www.justserve.org)で検索する。
- 地元のフードバンクでボランティア活動をする。



中東

2024年、末日聖徒イエス・キリスト教会は、レバノン、スーダン、イエメンなどにおける、医療、食料安全保障、住宅に焦点を当てた重要なプロジェクトへの支援など、中東全域のニーズへの対応に取り組みました。さらに、教会はガザ地区とイスラエルの複数の国際救援機関と協力して、国内にいる避難民に食料や、衛生用品だけでなく、医療およびメンタルヘルスの支援も提供しました。

医療支援

2024年初頭、教会はヨルダンのアル・フセイン協会に1,000台以上の車椅子を寄贈しました。その中には300台の小児用車椅子も含まれています。この寄付により、アル・フセイン・ソサエティは、親に機器の使い方とメンテナンス方法を教えるためのスタッフを訓練しました。これを受け取った子供たちは、新しい自由を得たのです。

パキスタンとイエメンでは、教会の献金により、ユニセフやそのほかの団体がワクチンの接種人数を引き上げることができました。特に、毎年何千人もの命を奪っている母子破傷風の予防接種を増やすことができたのです。そのほか、教会は資金を提供してバイルートの眼科クリニックを再開させ、貧困者でも視力を改善することができるようにしました。

さらに、クルディスタンの新しい看護師助産師養成センターは、教会とクルディスタン政府、センター長のビジョンが一致協力して、2024年1月に正式にオープンしました。このセンターでは、年間最大7,000人の看護師と助産師を養成し、新生児が健やかに成長できるようにする技術を身に付けさせています。

社会的弱者を支援する

何千人もの人が家を追われて他の場所に避難せざるを得なくなっており、特にイエメン、シリア、レバノンでは女性と子供が影響を受けています。教会は、救援プログラムに寄付をしたり、避難民に生活力を付けてもらう取り組みを支援したりすることで、避難民の苦しみを和らげようとしています。

例えば、教会はヨルダンに羊の乳農場を作るために150頭の羊をアル・ジャフスに寄贈しました。この農場では、乳製品製造業ができるよう地元の人たちを訓練して、再定住したキャンプにいる避難民が収入を得



アル・フセイン・ソサエティで新しい特殊な車椅子に乗る子供たち。

ることができるよう支援しています。教会はまた、レバノンのラーマ・ワールドワイド、エジプトのコプト正教会その他の組織と協力して、社会的弱者に緊急の食糧は支援を行いました。

健康で安全な妊娠のサポート

イエメンで、アルウェインは妊娠していることが分かって不安になりました。「近所には、出産中に最初の子供を亡くした女性がいます。……地元の助産師が出産時に使った道具が汚染されていたために、新生児が死亡したのです」と彼女は言います。

女性と子供たちの世話をする取り組みの一環として、教会はユニセフと協力して、アルウェインのような女性たちが予防接種を受けられるようにしました。健やかな赤ん坊を無事出産できるようにするためです。あり難いことに、アルウェインはこの共同事業で破傷風の予防接種を受け、健康で元気な男児を無事出産することができました。

わたしにできること

- お住まいの地域の避難民を支援する再定住センターでボランティアをする。
- 地元地域の医療ニーズと支援方法についてさらに学ぶ。
- 自立支援コースを受講して、学んだことを地域社会の人たちと共有する。



さらに詳しく

助けを必要とする人々への支援



教会と世界食糧計画の協力10周年を記念する行事で、食料の入った箱を作るユタ州のヤングシングルアダルト。

北アメリカ

合衆国、カナダ、メキシコの各地で、教会は数多くの人道支援活動に参加し、避難所、食料安全保障、医療などを必要としている人々を支援しました。

社会的弱者

「あなたがたは、わたしが旅人であったときに宿を貸し……てくれたからである」（マタイ25：35-36）という主の言葉に鼓舞され、わたしたちは家や家を失うという経験に直面した人々を支援しようと努めています。このことを念頭に置いて、教会は「希望への避難所」（Haven for Hope）やセントルイスセーフハーバー危機センター（St. Louis, Safe Harbor Crisis Center）、その他多くの組織に物資と資金を寄付して、避難所を探している人々に、尊厳を保ちながら生活できる仮設住宅を提供できるようにしてきました。

ソルトレーク・シティで開かれた教会の第2回年次ヤングシングルアダルト大会では、参加者は3日間を通して幾つかの奉仕プロジェクトに貢献しました。ホームレスの人たちのために毛布を作り、情緒ケアキットを詰め、地元の奉仕プロジェクトを手伝い、困っている子供たちのために食事を用意したのです。

フロリダ州では、壊滅的な被害を与えたハリケーンのために、多くの住民が生活必需品や被災地の片付けを必要としていました。2万1,000人以上の教会員が集まって支援活動を行い、合わせて約31万1,000時間のボランティア活動を、アメリカ合衆国南東部の1万300軒の家庭で行いました。教会はまた、水、食料、

衛生キット、その他の必需品を積んだトラックを、最も支援を必要とする地域に送りました。

食糧安全保障

イエスは御自分に従う者たちに、霊的にも肉体的にも主の羊を養うよう命じられました。北アメリカ全土で、末日聖徒イエス・キリスト教会はビショップの倉やフードバンクからの寄付、世界食糧計画（WFP）などの食糧安全保障の改善に重点的に取り組んでいる組織との協力を通じて、社会的弱者が食料を手に入れるようにする努力をしてきました。

2024年、教会と世界食糧計画は、ユタ州の両団体と数百人のヤングアダルトとともに、奉仕活動10周年を祝い、ユタ州のフードパントリー用に食料の入った箱を4,300個以上作りました。

カナダでは、教会は、トロントの人々が生活費の高騰に対処できるよう支援しているデイリー・ブレッド・フードバンクに寄付をしました。北アメリカ全土で、自立に焦点を当てたプログラムにより、困っている人々に緊急および長期の支援を確実に提供できるよう、食料安全保障が促進されています。

医療支援

医療施設は世界中に均等に分散されているわけではありません。きちんとした設備がないと、人々の生活に長期間にわたる影響が出る可能性があります。救い主が病人を癒すために人生の大半をささげられたよ



「わたしたちの（協力関係が）持続する力を持っているのは、人道的精神や奉仕の呼びかけ、信頼関係の構築など、共通の価値観を非常に多く共有しているからです。」

—米国赤十字社会長兼CEO、クリフ・ホルツ氏¹⁸

うに、教会も医療格差を埋めて人々の生活の質を物質的にも霊的にも良くする手助けをしようと努めています。

メキシコ南部では、不便な地域に住んでいる人への医療提供に力を入れています。人里離れたベラクルス地方の患者が必要な治療を受けられるよう、糖尿病に特化した遠隔医療プログラムが始まりました。そして、教会はメキシコ赤十字社と協力して画像機器を刷新して、医療措置を受けられない人たちの役に立てることができるようになりました。

さらに、教会の資金援助のおかげで、カトリック救済サービス（Catholic Relief Services）とメキシコ・アドベンチスト・デベロップメント・アンド・リリーフ・エージェンシー（Adventist Development and Relief Agency Mexico）が、国内に流入して来る社会的弱者である移民に避難所や医薬品を提供し、彼らに健康診断を受けてもらうことができるようにしました。女性と子供は、移民たちの中でも避難所を探す際にいちばん社会的に弱い立場にあります。そこで、このような医療支援を行うことにより、栄養不良その他の予防可能な病気を阻止することができるようにしています。

わたしにできること

- 地元の食料配給所を見つけ、ボランティア活動をしたり物資を手配したりする。
- 自分の家庭や近隣地域のための緊急時への備えの計画を立てる。
- 地元地域に避難してきた人たちとの間に良い関係を築き、彼らを支援することのできる方法を考える。



地域社会の奉仕プロジェクトに参加するオハイオ州の青少年。

荒廃の後に見つけた希望

テキサス州に住むヒュー・マーサ^{*}夫妻は、テキサス州史上最大の山火事で家畜の3分の1を失いました。この火事のために、牛が草を食べていた草原も焼け野原になり、牛の群れに食べさせる物はほとんどありませんでした。

この火災による被害の救済措置として、教会の中央ビショップの倉は、ヒューとマーサを含む地域の農夫たちに干し草の俵を送りました。この困難な時期に、家族を養うために残された物売る代わりに、彼らは家畜を育てて、牧場の経営を引き続き行うことができたのです。

^{*}仮名です



ありがとうございました。

世界中の神のすべての子供たちを世話するわたしたちの取り組みに参加して下さる、教会の会員や友人の皆さんに感謝します。皆さんの時間やお金、才能のささげ方は人々の目に留まり、大きな変化をもたらし、大変感謝されています。

また、ほかの非営利団体と協力することによって人道支援活動がさらに広い地域でできるようになってきていることにも、感謝しています。わたしたちは、今後数年間、この協力関係を継続することを楽しみにしており、将来、一緒に何が成し遂げられるか、楽しみにしています。

神はあなたの祈りを聞き、困っている人々を支援するあなたの働きを見ておられます。皆さんの奉仕により、皆さんの生活に平安と希望、愛という祝福が注がれるならば幸いです。そして、引き続き神と互いへの愛を示して下さるようお願いいたします。



人々を支援するという教会の断固たる姿勢についてさらに学ぶには、Caring.ChurchofJesusChrist.orgを御覧ください。



可能であれば、左のQRコードからJustServeアプリをダウンロードして、お住まいの地域で奉仕プロジェクトを始めましょう。

詳細については、オンラインでお問い合わせください

- ◆ ChurchofJesusChrist.org
- ◆ Caring.ChurchofJesusChrist.org
- ◆ JustServe.org
- ◆ DeseretIndustries.org
- ◆ AddictionRecovery.ChurchofJesusChrist.org

その他のリソース

Instagram

- ◆ @Caring.ChurchofJesusChrist
- ◆ @Deseret_Industries
- ◆ @JustServe

Facebook

- ◆ @Caring.ChurchofJesusChrist
- ◆ @DeseretIndustriesThrift
- ◆ @JustServe.org



参照資料

1. 「貧しい人や困っている人を助ける」『リアホナ』2022年11月号、6
2. Sarah Bouchie, in "Relief Society Leads Global Effort to Improve Health and Well-being of Women and Children," Newsroom, June 12, 2024, <https://newsroom.churchofjesuschrist.org/article/relief-society-global-effort-health-well-being-women-children>.
3. Instagram, June 1, 2024, https://www.instagram.com/p/C7rkEN9Mdn6/?img_index=1.
4. 「その喜びはいかに大きいことか」『リアホナ』2023年11月号、53)
5. Gérald Caussé, in "Why Is Utah Thriving? Look to Latter-day Saint Pioneer Values, Presiding Bishop Says," Newsroom, May 22, 2024, <https://newsroom.churchofjesuschrist.org/article/latter-day-saint-pioneer-values-utah-presiding-bishop>.
6. 「英雄以上の存在」『リアホナ』2023年11月号、91-92
7. ダリン・H・オークス「貧しい人や困っている人を助ける」『リアホナ』2022年11月号、6参照
8. Gérald Caussé, in "Bishop Caussé shares 4 pioneer values that contribute to success in worldwide stewardship," The Church News, May 22, 2024, <https://www.thechurchnews.com/leaders/2024/05/22/bishop-gerald-causse-shares-4-pioneer-values-in-worldwide-stewardship/>.
9. L. Todd Budge, in "'There's No Greater Blessing Than to Be an Instrument in God's Hand,' Bishop Budge Tells Missionaries," Newsroom, Nov. 29, 2023, <https://newsroom.churchofjesuschrist.org/article/-there-s-no-greater-blessing-than-to-be-an-instrument-in-god-s-hand-bishop-budge-tells-provo-mtc-missionaries>.
10. Patrick Kearon, in "Latter-day Saints and Environment," Newsroom, Nov. 6, 2023, <https://news-middleeast.churchofjesuschrist.org/article/kearon-latter-day-saints-and-environment>.
11. Camille N. Johnson, in "The Church's efforts to improve nutrition for women and children, one by one," *Church News*, Mar. 16, 2024, <https://www.thechurchnews.com/living-faith/2024/03/16/global-nutrition-efforts-women-and-children-well-being-relief-society/>.
12. Barron Segar, in "Building self-reliance and feeding the hungry in Liberia," *Church News*, Jan. 25, 2024, <https://www.thechurchnews.com/global/2024/1/25/24048234/church-building-self-reliance-feeding-the-hungry-in-liberia/>.
13. J. Anette Dennis, in "Sister J. Anette Dennis: Trust That the Lord 'Will Meet You Where You Are,'" Newsroom, June 22, 2022, <https://newsroom.churchofjesuschrist.org/article/sister-j-anette-dennis-trust-that-the-lord-will-meet-you-were-you-are>.
14. Solomon Akpanufot, in "Church of Jesus Christ Celebrates 'World Water Day' With Donation to Mboshi Aji Community in Nigeria," Newsroom, Mar. 31, 2024, <https://news-africa.churchofjesuschrist.org/article/church-of-jesus-christ-celebrates--lsquo-world-water-day--with-donation-to-mboshi-aji-community-in-nigeria>.
15. HE Nhek Ban Kheng, in "Church collaborates on new hospital in Cambodia and renovations to 3 more," *Church News*, Mar. 16, 2024, <https://www.thechurchnews.com/living-faith/2024/03/16/cambodia-health-improvement-effort-church-collaborates-new-hospital-renovations>.
16. Kristin M. Yee, in "Relief Society General Presidency: How Jesus Christ Offers Spiritual and Temporal Relief," Newsroom, July 5, 2023, <https://newsroom.churchofjesuschrist.org/article/relief-society-general-presidency-how-jesus-christ-offers-spiritual-temporal-relief?lang=eng>.
17. グレット・W・ゴング「愛の言葉」『リアホナ』2023年11月号、113
18. Cliff Holtz, in "The Church of Jesus Christ Contributes US\$7.35 Million to the American Red Cross," Newsroom, Mar. 21, 2024, <https://newsroom.churchofjesuschrist.org/article/church-jesus-christ-american-red-cross-2024-donation>.



